

成果の説明書

|  |             |
|--|-------------|
| (氏名) 米本 清  | (学部) 地域政策学部 |
| <p>1 重要事項</p> <p>①中核市等の将来に関する研究（選好・効用の理論およびその地域経済学への応用に関わる研究）</p> <p>日本学術振興会科学研究費・若手研究（B）研究代表者「少子高齢化が進む都市システムの中で中核市等が果たすべき役割に関する研究」（平成 27 -30 年度）の 4 年目として、都市システム理論と選好・効用の理論に関わる研究の融合を図り、成果を以下の形で発表した。</p> <p>Reference-Dependent Preference, Agglomeration and Migration - Theoretical Model and Some Evidence, North American Meetings of the Regional Science Association International, San Antonio, USA. (2018 年 11 月 8 日)</p> <p>Reference-dependent Preference and Local Public Goods, 応用地域学会第 32 回研究発表大会、南山大学 (2018 年 12 月 2 日)</p> <p>Interregional Migration and Welfare: Reference-dependent Preference Approach, International Conference on Sustainable Development through innovation in Economics and Management Sciences, NED University of Engineering and Technology, Karachi, Pakistan. (2019 年 3 月 9 日)</p> <p>※なお、上記学会では現地の要人（州知事・中央銀行元総裁）などとの国際交流にも務めた。</p> <p>②人口減少下の都市における交通量変化の研究</p> <p>上記の科研費研究に関連し、これまで 20 年近く研究を続けている、耐久性を考慮した都市の住宅用地・交通用地モデルに関する分析の拡張として、引き続き人口減少下の交通量変化の研究を行った。成果は以下の国際学会で発表した。</p> <p>Population Decline and Adjustment of Land Used for Transportation, 韓国・済州大学校 (2018 年 9 月 7 日)</p> <p>③空間経済学モデルと産業連関モデルの融合</p> <p>東北大学の伊藤亮准教授と共同で進めている、空間経済学のモデルと産業連関モデルの関係についての研究や、その応用分析に関して、成果を以下の国際学会で発表した。</p> <p>An interregional input-output analysis with the Eaton-Kortum model, 環太平洋産業連関分析学・ICES 国際会議、立命館大学 (2019 年 3 月 18 日)</p> <p>④教科書の出版</p> <p>地域政策学部科目「経済学」を共同で担当している宇都宮仁先生や、学外の先生方と共著で「わかりやすさ」に重点をおいた入門教科書「経済学入門」を執筆、出版した。各先生の授業における採用に加え、一般販売もしている。</p> |             |

#### ④災害関連の研究

学生と共同で行った研究が、以下の雑誌に掲載された。

米本清・大沼克哉「津波避難タワーに関する費用便益分析とまちづくりー石巻市を事例として」観光まちづくり学会誌 Vol.15, 3-10.

## 2 その他の事項

研究室の学生と共同で進めた研究に関し、学生が以下の発表を行った。この発表は、「優秀発表賞」（学生発表の最優秀賞）を受賞した。

早川雄丞・米本清「インバウンド観光の決定要因と経済効果：群馬県を事例として」観光まちづくり学会第17回大会、岩手大学（2018年11月3日）

関東都市学会の理事（2015年度-）を務めている。

観光まちづくり学会の理事（2015年度-）・学術論文審査委員会副委員長（2018年度-）を務めている。

学部の入門・必修科目である「地域政策学入門」の授業を引き続き担当し、新入生全員のリアクションペーパーを読むなどして、導入科目の充実に努めた。

研究室の3年生学生を中心に、榛東村子育て支援イベント（9月）等に参加し地域支援を行った（4年目）。

ラジオ高崎ラジオゼミナールの講師を務めた（合計2回放送分）

上毛新聞の公営墓地に関するインタビューに回答し、その内容が1月28日分の一面に掲載された。

その他、本学地域科学研究所の製造業研究や「長野堰の成立と歴史的役割に関する研究」プロジェクト、「ぐんま地域経済研究会」等に関連して、所内研究会や発表会に積極的に参加した。

大学院の「地域活性化特論」において、「東京一極集中と地方都市の今後・人口減少問題と都市に関する学問的検討」と題して授業を担当した。

市との連携授業「高崎市の課題と政策」において一部授業の解説等を担当した。

県外の高校へ出前授業を行った。

群馬大学理工学部において非常勤講師「公共経済学」を担当し、そちらでの教育成果と本学における教育・研究成果を相乗的に活用した（2年目）。

複数の学会等において投稿論文の査読を行った。

大学院で論文審査の副査等を担当した。

学内の各委員会や入試関連の業務等も積極的に務めた。

## 3 次年度以降の計画・抱負

地域経済学（科研費）関連の研究やその他の研究を進め、雑誌への投稿を積極的に行う。新たに「地域経済論」を担当することとなったので、事前準備を進め、充実した授業内容となるようにする。

着任後8年目ということもあり、講義内容等をアップデートし、学生のニーズに合わせてるとともに、さらに質を高める。演習に関しても、より教育的効果の高い方向性を模索する。